

討 言 義

土木學會誌 第十六卷第二號 昭和五年二月

堂 島 川 可 動 堰 に 就 て

(第十五卷第十號所載)

會 員 工 學 士 並 川 熊 次 郎

大大阪市の舊市街地水路網に、動脈硬化作用を生ぜしめ、汚水淨化を企圖せらるゝに至りしは痛快の極であります。但し斯様な汚水に對して開閉扉に精妙な装置を施されたるは定めし適當なる保持方法が講ぜられてある事と察せられます。序でに御説明を煩はしたいのです。

立賣堀の傳説は面白く拜讀しました。鼈説は俗説のやうですが或は伊太氏神の信仰に基因して居るかと思はれます。此の神は神功皇后の舟隊の水先に任じた傳説(播磨風土記)、並に大汝命が其の子火明命を遣はして播磨國飾磨郡因達の神山に水を求めしめたとあり、今の姫路市總社は神名帳の射楯兵主神社であり、陸前國にも色麻郡伊達神社(神名帳)あり信仰の範圍は廣い。

神名は和名抄には伊多知と訓ませてありますから鼈と關係あるやうですが私説では甲板部隊又は甲板主の義で武備、給水、水先等航行に關する一切を掌る神であらうと考へます。夫が立賣の語と結び付いたのは御話の材木商からでありませうが、イタテの語は材木の舟運に關係した信仰を含むかと思はれます。

伊達正宗は大阪冬の陣には矢尾に陣取つたまゝで實戦せず、夏の陣には將軍秀忠に従つて奈良口の先鋒と成り、河内方面で戦つたのですが、元來此の戦役は不本意であつたのですから大阪城の西方に迄手を延べて堀割の大工事を敢へてしたとは思はれませぬ。餘計な事を書いて相濟みませぬが立賣堀邊に伊楯神の故址があれば御知らせを願ひたいと思つて餘白を利用しました。